



2023年5月16日

各位

会社名 黒田精工株式会社
代表者氏名 代表取締役社長 黒田 浩史
(コード番号 7726 東証スタンダード)

(訂正) 2023年3月期 決算補足説明資料の一部訂正について

当社が2023年5月15日に公表いたしました「2023年3月期 決算補足説明資料」に、一部訂正を要する箇所がありましたので、下記のとおり訂正いたします。

記

(訂正箇所)

2023年3月期 決算補足説明資料 7頁 連結キャッシュ・フローの状況
図表内 フリーCF の値 (下線部)

【訂正前】

フリーCF △891

【訂正後】

フリーCF △ 80

以上

本件に関するお問い合わせ先
経営企画室 富山
TEL : 044-555-3800

黒田精工株式会社

(証券コード：7726)

2023年3月期 決算補足説明資料

<目次>

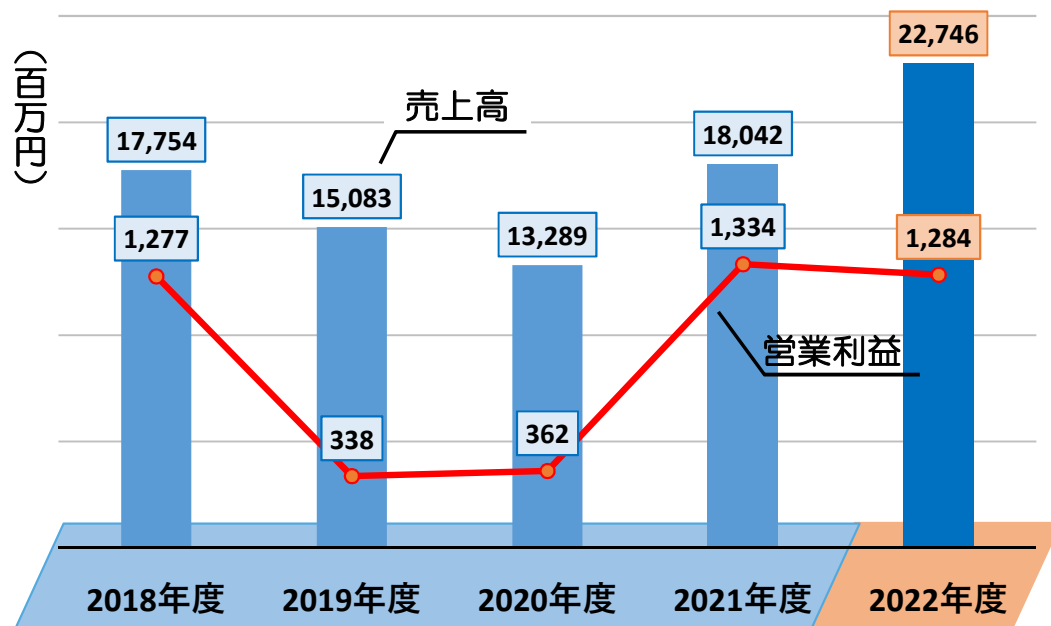
1. 2023年3月期 連結決算概要
2. 2024年3月期 通期連結業績予想・配当予想

2023年5月15日

1. 2023年3月期 連結決算概要

2023年3月期 連結決算概要

(単位：百万円)	前年同期 (2022年3月期)	期初業績予想 (22年5月13日付)	2022年度 (2023年3月期)	増減 (前年同期比)	増減 (期初予想比)
受注高	19,989	-	21,958	+1,969	-
売上高	18,042	20,000	22,746	+4,703	+2,746
営業利益	1,334	1,350	1,284	△50	△66
経常利益	1,437	1,250	1,533	+95	+283
親会社株主に帰属 する当期純利益	563	700	906	+342	+206



- ◆ 半導体・液晶関連装置市場向け駆動システム商品の受注が調整局面を迎えたものの、自動車向け金型システム商品の需要が好調に推移し、受注高は前年同期比で大幅に増加。
- ◆ 売上高は金型システム商品の売上増が大きく寄与し大幅増収。一方利益面では、物流費や電力コストの増加、ドイツ現法の工場移転に伴う一時的な減収と移転コスト発生により、営業利益は前年同期比△50百万円の減益となったが、経常利益は為替差益やロイヤリティ収入増加により増益。
- ◆ 特別損益において政策保有株式の売却益96百万円、固定資産減損損失76百万円等を計上し、当期純利益は906百万円と大幅な増益。

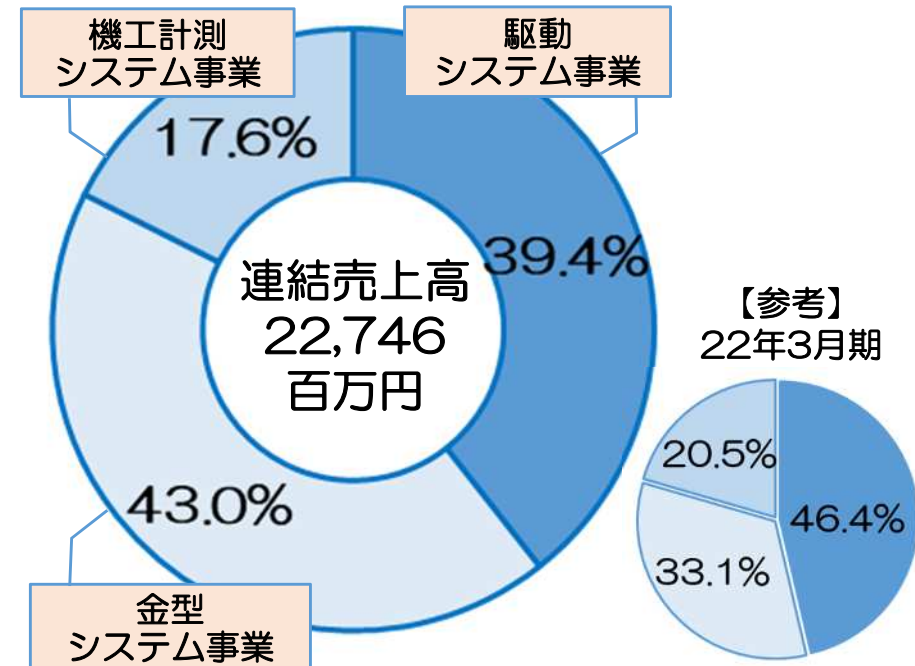
セグメント別概要

単位：百万円	受注高 (前年同期比増減)	売上高 (前年同期比増減)	営業損益 (前年同期比増減)
駆動システム事業	7,275 (Δ2,728)	8,966 (+595)	1,030 (Δ107)
金型システム事業	10,645 (+4,680)	9,798 (+3,813)	366 (+92)
機工計測システム事業	4,055 (+22)	3,999 (+299)	Δ81 (Δ29)

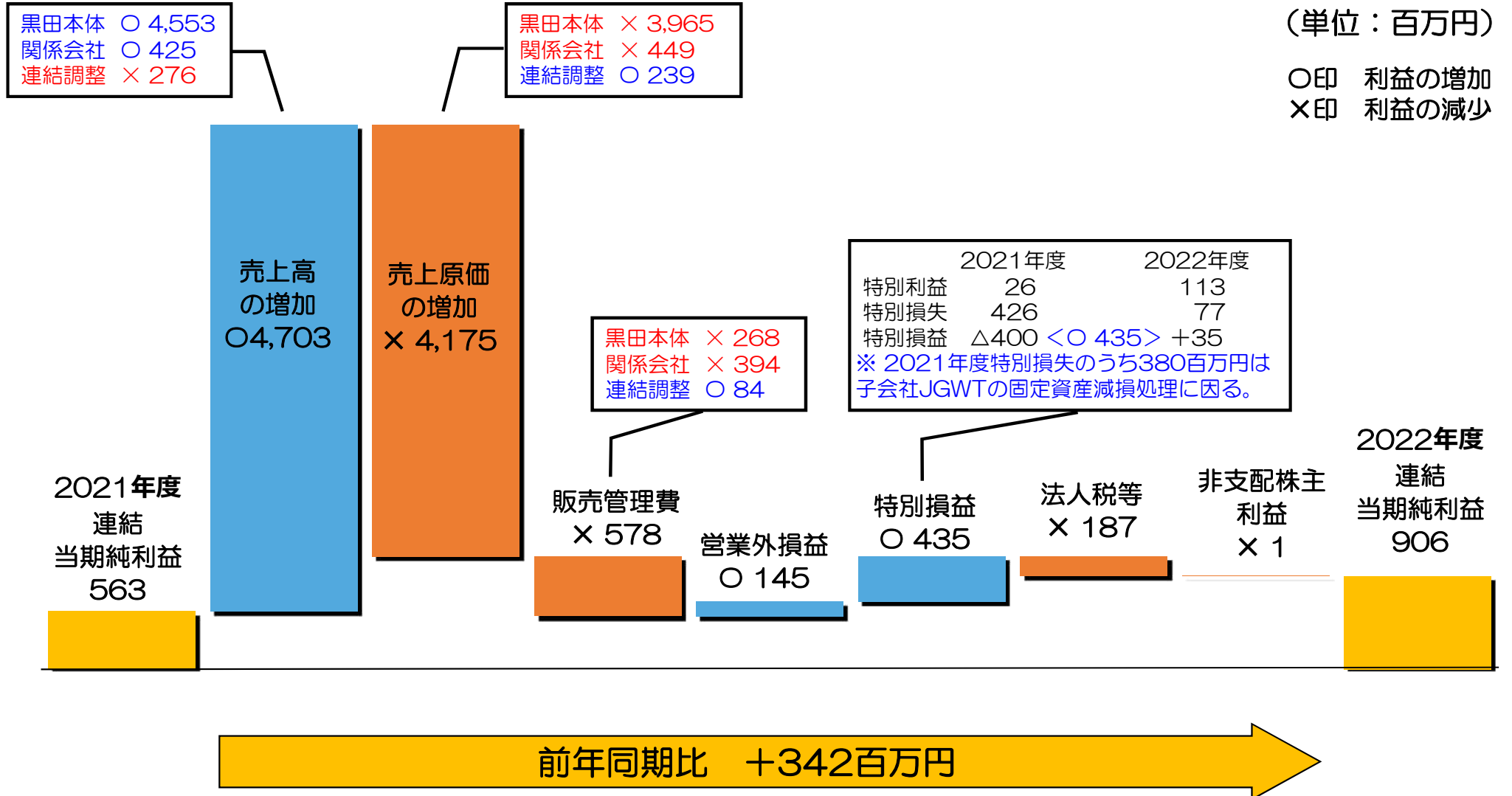
◆駆動：主要顧客の半導体/液晶関連装置向け市場が第3Q以降に生産調整の局面を迎え受注が減少する一方、売上高は潤沢な受注残と生産体制増強により高水準を維持。ただし海外子会社移転に伴う一時費用等により前年同期比では増収減益。

◆金型：車載用モータコアの受注急増により受注高、売上高ともに大幅増加。一方利益面は、増収効果が寄与する一方で急激な増産対応による外注加工費の増加、海外向け物流費等の増加の影響を受け、売上増加幅に比し小幅な増益。

◆機工計測：工作機械等システム商品の緩やかな市況回復を受け、受注高・売上高は前年同期を上回るも、収益面では部材調達コストの増加、子会社の事業縮小等の影響を受け、前期に続いて営業損失を計上。



前年同期比 連結当期純利益の変動要因



黒田本体 ○ 4,553
関係会社 ○ 425
連結調整 × 276

黒田本体 × 3,965
関係会社 × 449
連結調整 ○ 239

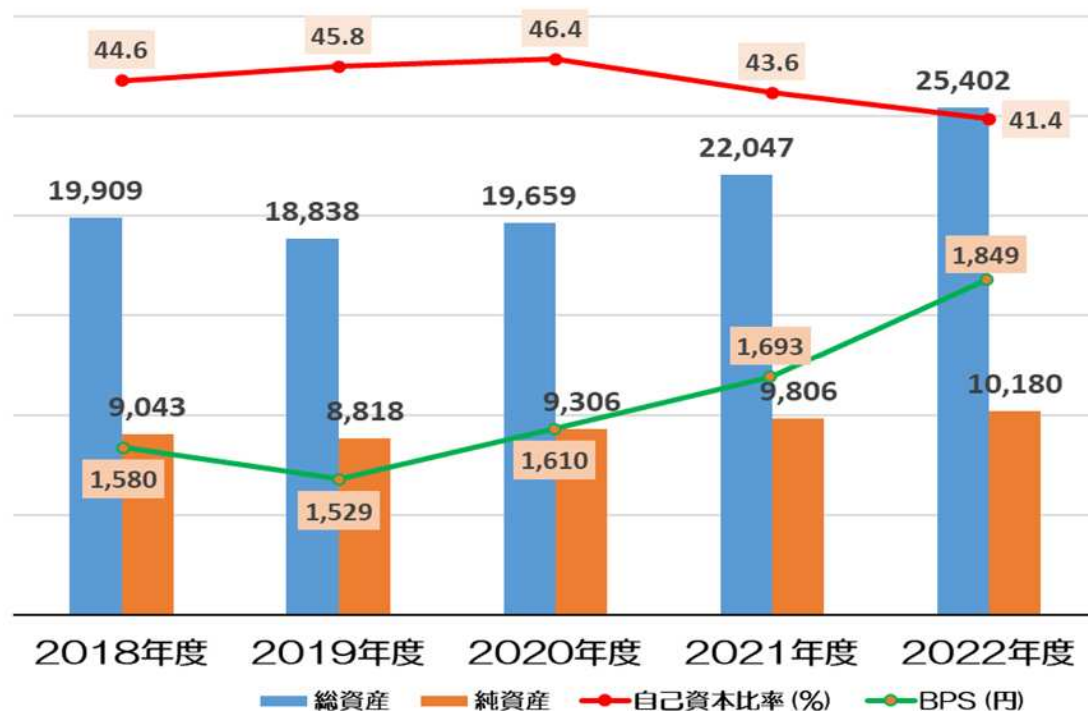
黒田本体 × 268
関係会社 × 394
連結調整 ○ 84

	2021年度	2022年度
特別利益	26	113
特別損失	426	77
特別損益	△400	<○ 435> +35

※ 2021年度特別損失のうち380百万円は子会社JGWTの固定資産減損処理に因る。

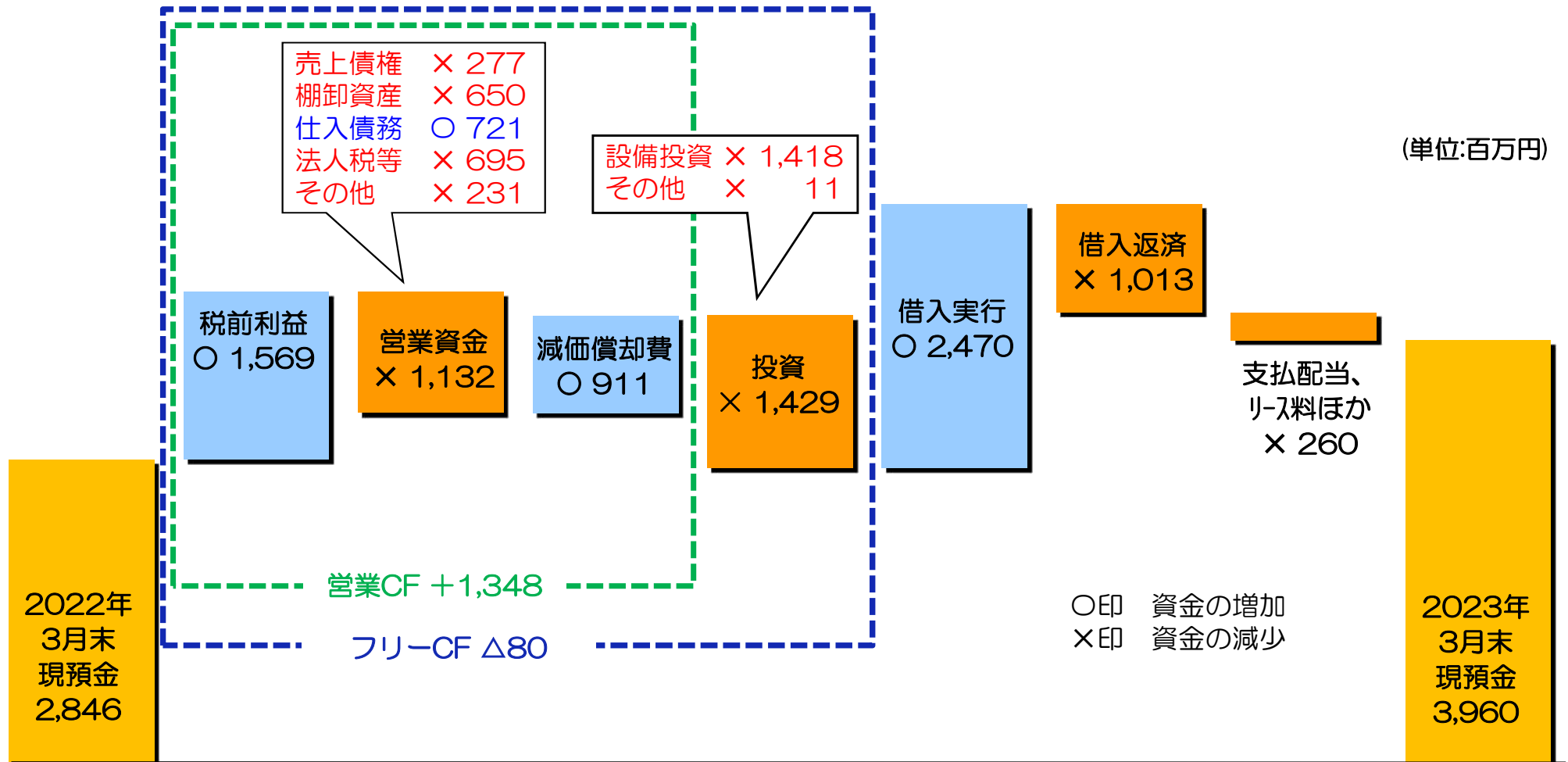
連結貸借対照表

	2021年度 (2022年3月期)	2022年度 (2023年3月期)	増減
総資産 (百万円)	22,047	25,402	+3,355
純資産 (百万円)	9,806	10,730	+923
負債合計額 (百万円)	12,241	14,672	+2,431
自己資本比率 (%)	43.6	41.4	△2.2 P
1株あたり純資産(BPS) (円)	1,693	1,849	+155



- ◆ 総資産：前年度末比+3,355百万円の増加
⇒ 流動資産+2,638百万円（現預金、棚卸資産の増加等）
固定資産+ 716百万円（建設仮勘定の増加等）
- ◆ 純資産：前年度末比+923百万円の増加
⇒ 株主資本+ 782百万円（利益剰余金の増加等）
- ◆ 負債合計額：前年度末比+2,431百万円の増加
⇒ 流動負債+2,301百万円（短期借入金の増加等）
固定負債+ 129百万円（退職給付に係る負債の増加）
- ◆ 自己資本比率：41.4% 前年度末比△2.2P

前年度末比 連結キャッシュ・フローの変動要因



前年度末比 +1,113百万円

中期計画 (Vision2025) の進捗状況

【経営指標】

Vision 2025		2023年3月期 連結実績	判定
売上高	168億円～230億円	227億円	◎
営業利益率	4%超～8%	5.6%	○
ROE	5%超～10%	9.0%	○
自己資本比率	45%以上	41.4%	×
配当性向	25%～35%	25.1% (配当40円/1株)	○
総投資額	計画期間 (5年) 中 73億円程度の規模	2021年度～2022年度 累積投資額 約25億円	○

2. 2024年3月期 通期連結業績予想、配当予想

2024年3月期通期連結業績予想・配当予想

注：単位記載の無い項目は百万円単位	2022年度 (2023年3月期)	2023年度 (2024年3月期)	前期比増減率
売上高	22,746	19,700	△13.4%
営業利益	1,284	970	△24.5%
経常利益	1,533	870	△43.3%
親会社株主に帰属する当期純利益	906	560	△38.2%
1株あたり年間配当金（予定額）	40円00銭	35円00銭	—
配当性向（%）	25.1%	35.4%	—

- ◆ 駆動システム商品の主要顧客である半導体市場向けを中心に国内／海外ともに受注の低迷が続いていること、特定顧客向けモーターコア商品の生産調整が必要なことに加え、減価償却費・電力費等のコスト上昇圧力があることから、2023年度の連結業績は、売上高19,700百万円、営業利益970百万円、経常利益870百万円、親会社株主に帰属する当期純利益560百万円を見込む。
- ◆ 1株あたり年間配当は 35円／株 を予定。

セグメント	見通し、計画
駆動システム事業	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 年度内は主要顧客の半導体製造装置向け市場で生産調整・在庫調整が継続し、減収減益を見込む。 ◆ 今年度終盤から来年度以降に予想される需要回復期の増産に柔軟に対応出来る生産体制を整えるため、自動化生産ラインの拡充等に向けた設備投資を順次実施していく計画。
金型システム事業	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 主力の車載用モーターコア金型は、前期に引き続き好調な需要を維持する一方、特定顧客の生産調整等によりモーターコア製品の売上高は一時的に伸び悩みが予想される。 ◆ 今期中に長野工場へのプレス設備増設を伴う拡張工事が完了。その後も車載用モーターコア金型の更なる増産体制構築のため、必要な設備投資を順次実施していく計画。 ◆ 増産体制構築完了まで一時的には外注コスト等の増加が発生。また、減価償却費の増加に加え、電力費・物流費等のコスト上昇圧力が継続しており、業績に影響を及ぼす懸念。
機工計測システム事業	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 工作機械、要素機器ともに需要は緩やかに回復の傾向が続いており、新市場の開拓努力と併せて、受注高は回復が見込める。 ◆ 海外の販売・サービス網の強化、自動化設備や産業用ロボット分野など国内外の新市場の更なる開拓・深耕を計画。 ◆ 一部の部材調達コストの上昇と、電力費・物流費等のコスト上昇圧力が継続することにより、業績に影響を及ぼす懸念。

- ◆ 当資料は、投資家の皆さまに黒田精工株式会社への理解を深めて頂く事を目的として、経営や財務に関する情報を提供するものです。
- ◆ 当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。
- ◆ 当資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。実際に投資を行う際は、本資料の情報に全面的に依拠することなく、ご自身の判断で行うようお願い申し上げます。

【お問い合わせ先】

黒田精工株式会社 経営企画室 IR担当

TEL：044 - 555 - 3800

ホームページ：<https://www.kuroda-precision.co.jp>